

東北学院大学・荒町商店街振興組合・(株)ユーメディアによる 未来型地域連携の新事業がスタート ～TAU(ティーエーユー)ラウンドテーブル～

東北学院大学（仙台市、学長：大西晴樹）・荒町商店街振興組合（仙台市若林区、理事長：佐藤隆俊）・株式会社ユーメディア（仙台市若林区、代表取締役：今野均）が、荒町地域をフィールドに、未来型地域連携『TAUラウンドテーブル』事業をスタートします。学生と地域の協働による“新たなまちづくりへの挑戦”がはじまります。



東北学院大学



100年後も賑わう商店街へ。
荒町商店街 振興組合
Aramachi Sendai City



※ラウンドテーブルイメージ図



多様な主体が参画し、リソースを持ち寄り推進することで、まちの課題を協働で解決する土台の関係性を築くことを目指します。

事業の背景

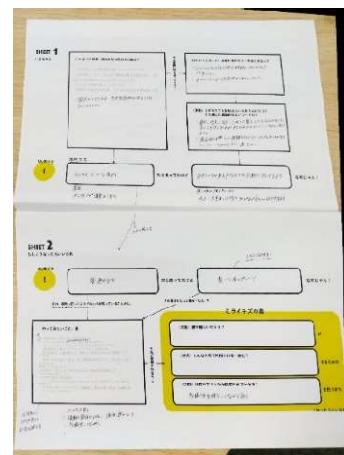
「TAU」は、東北学院大学の T、荒町の A、ユーメディアの U、それぞれの頭文字からネーミングしています。2018 年より荒町商店街として実施していた「荒町 100 年プロジェクト」では、これまで「荒町百年物語映画製作」や「あらまち子もりプロジェクト」「回文団扇復活」等を実施してきました。また、東北学院大学は、2023 年度の五橋キャンパス開学を契機として、さらに地域との連携を強固なものとするべく、「荒町 100 年プロジェクト」における連携に加え、公園の環境整備活動、防犯活動、学習支援活動、祭事支援、情報発信などに取り組み、地域との関係性を構築してきました。このような関係性を背景に「荒町 100 年プロジェクト」を商店街、東北学院大学で進める中で、荒町地域に立地し「コミュニケーションデザインカンパニーとして地域の未来をつくる」ことを事業ミッションとしている株式会社ユーメディアが参画し、ラウンドテーブル（名称：TAU ラウンドテーブル）という枠組みで各種事業に取り組むことになりました。

事業の内容

中心となるのは地域の未来を担う大学生。学生は荒町の町長になったつもりで、荒町地域のステークホルダーと対話し、ともに施策を企み、各主体がリソースを持ち寄り、ともに実現を目指します。

昨年、11月6・7日の2日間で、東北学院大学の学生を対象とした荒町商店街のまち歩き企画「しらないなんてもったいない！IN ARAMACHI」を開催。イベントには17名の学生が参加し、2日間で6店舗を回り、荒町の歴史や商店街の人となりを知ることができました。その後、まち歩きを振り返りながら、イベント参加前の荒町のイメージ、まち歩きで感じた荒町の特徴、特徴を活かして荒町でやってみたいことなどをブレスト。荒町の過去・現在・未来の魅力発掘を行いました。4月以降は、100年後の荒町に伝え残したい「荒町らしさ」と、現状との乖離（ギャップ）を埋める施策をともに企み、実行していきます。このプロセスはCOLORweb※をはじめ、各者媒体でプロセスの発信を行い、実行した施策については、「ミライチズ」として次年度以降に引き継がれます。「ミライチズ」は、荒町の現在の姿と、実行した施策を記録することで構成します。現在は、東北学院大学の学生7名、COLORwebの学生2名が参加。新メンバーも継続して募集します。

※COLORweb…学生編集部による情報発信を行うWebメディアで、(株)ユーメディアが運営を行う。昨年実施した荒町商店街のまち歩き企画のレポート記事を公開中。 <https://ameblo.jp/colorweblog/entry-12841304831.html>



(左から) 未来の扉センターにてワークショップの様子と学生と荒町商店街が取り組んだワークシート

●2024 年度の大まかなスケジュール

4月 キックオフ・実施施策の検討

5月～7月 マップ・その他施策の企画

8月～12月 取材・準備

1月～2月 マップ完成・施策の実行 ※施策の内容によっては、実行時期変動あり

3月 発表・振り返り、次年度へ向けた計画

【取材のお願い】

次回日程

5月27日(月) 18:30～19:30 場所：東北学院大学 五橋キャンパス 未来の扉センター

当日は、荒町の良さを守ることを目的としたMAPづくりを企むことと、荒町に新常識をつくるためのアイデアを企むことの、計2つの企画を進めます。東北学院大学の学生と荒町商店街振興組合の方を中心に、2つのグループに分かれてワークをします。ぜひ一度取材にいらしてください。

【本リリースに関する報道お問い合わせ先】

<TAU ラウンドテーブル事務局>

株式会社ユーメディア コーポレートデザイン部 担当：阿部

TEL：080-8605-9522 e-mail：c-abe@u-media.jp